

医師・コメディカル統合的人材育成拠点形成

実施予定期間：平成 21 年度～平成 25 年度
統括責任者：福田 秀樹（神戸大学）

I. 概要

兵庫県内の地域医療再生において、医師とコメディカルの円滑なスキルミクスは地域医療の質、安全性向上の一つの解決策である。また機能的なスキルミクスに支えられたチーム医療は災害医療においても重要な役割を果たす。神戸大学を中心として兵庫県等と連携し、機能的なスキルミクスを実現できるエキスパート・コメディカルの育成を目的に災害・救急医療、感染症医療、周産期医療、高齢者医療および、がん医療の 5 つの領域の育成コースを策定する。県内全域をフィールドとした地域医療人材の総合的育成及び循環システムの構築を通じて、県民の安全・安心を守る地域医療の再生ならびに今後発生が危惧されている南海大地震などに対する災害医療の充実を実現する。

1. 地域の現状と地域再生に向けた取組状況

(1) 地域の現状と課題

全国的に地域の一般病院の医師不足が深刻になっており、兵庫県では特に中部、北部および淡路島地域で問題が広がりつつある。兵庫県は瀬戸内海から日本海までの南北に広がっており、阪神地区を中心とした大都市と中北部、淡路島の過疎地が混在し、医療の偏在化が顕在化し、いわば日本の縮図とも言える状態である。また一方、阪神、淡路大震災の経験を有する兵庫県は全国的に見ても災害医療先進地域でもあるが、今後その発生が危惧される南海大地震などの大災害に対応できる災害時医療体制の確立、充実は急務である。

実際の医療現場は医師以外の様々なコメディカル（医療専門職）によっても支えられている。一般的にコメディカルには看護師、保健師、助産師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、管理栄養士、理学療法士、医学物理士、作業療法士など多数の職種が存在する。近年、コメディカルの人数と医療の質・安全性に密接な関係があることが明らかになっている。2007 年 OECD（Organization for Economic Co-operation and Development：経済協力開発機構）の Health Data によると 100 病床あたりの医師およびコメディカルを合わせた全医療従事者数は英国 740 人、米国の 504 人に比較して日本は 104.9 人と医師不足以上に深刻な状態に陥っていることが示されている。コメディカルの不足による医師の業務負担の増加は医師の疲弊を助長し、医療崩壊の危機を加速させている。様々なコメディカルのスキルミクス・多職種協働（IPW）が医療崩壊を防ぐ解決策の一つとして現在、議論されているが、コメディカルの量、質的向上による医療の質と安全性の向上は医療崩壊の危機がより深刻な地域医療にこそ優先して行われるべき危急の対策と考えられる。さらに地域医療に限らず、コメディカルとの機能的なスキルミクスに支えられたチーム医療は、災害医療においても大きな役割を果たす。今後、発生が危惧される南海大地震などの大災害時の備えとしてもスキルミクスを円滑に行えるエキスパート・コメディカルの育成は重要な意味を持つ。このような状況にありながら、地域・災害医療に従事するコメディカルにおいては機能的なスキルミクスを行うための高度専門教育の機会が極めて限定されている。従って、地域医療等に従事するコメディカルが容易に高度専門教育を受けることができ、そこで学んだ知識、技術を高度チーム医療の実践によ

り地域医療に還元し、今後の南海大地震などの大災害発生時の備えにもなる地域再生人材育成拠点の構築は非常に必要性の高い、意義のある課題である。さらに、この課題の成果がもたらす地域・災害医療の充実、最終的に地域の発展、活性化に非常に大きな役割を果たすと考える。

(2) 地域再生に向けた取組実績と今後の方向性

平成 20 年 3 月、神戸大学大学院医学研究科および同大学医学部附属病院と兵庫県の間で地域医療向上のための相互連携協力協定を締結し、医師不足の地域に対する医師派遣システムを既に構築し、地域医療の質の向上に積極的に取り組んでいる。派遣された医師に対しては大学病院を中心とした高度医療機関への定期的なローテーションを実施するなど、医師不足問題と高度専門教育システムの相互協調システムを既に構築している。また、神戸大学大学院医学研究科では兵庫県と連携して、へき地医療学講座を創設し、公立豊岡病院に設置した“へき地医療研究所”を運営している。へき地医療に代表される地域医療ではコメディカル・社会資源を巻き込んだチーム医療の実践が不可欠で、保健・医療・介護が連携した医療システムの開発を進めている。さらに神戸大学では阪神、淡路大震災の経験から神戸大学都市安全研究センターならびに災害・救急医学講座を創設し、災害医療システムの構築に力を注いでおり、機能的なチーム医療が必要不可欠な災害医療でのコメディカルの教育研修も積極的に実施している。2008 年 4 月には保健学研究科を新たに設置し、看護、臨床検査、理学療法、作業療法等に携わるコメディカルの高度専門教育にも力を注いでいる。神戸大学および兵庫県の人材教育拠点の相互交流は、今後医師だけでなくコメディカルも含んだ包括的なものに発展させ地域・災害医療の質の底上げを図る計画である。神戸大学では全国に先駆けて臨床医学分野、医療協働推進学分野、医療システム分野からなる地域社会医学・健康科学講座を設立する構想を持っており、これを基盤とし神戸大学大学院保健学研究科、兵庫県立大学、神戸薬科大学、および兵庫県立病院とともに人材育成の拠点にふさわしいコメディカル育成ネットワークを兵庫医療圏に構築し、そこで育成された人材を自治体が積極的に地域医療再生ならびに災害医療の充実に活用するという、全国的にも類をみない兵庫地域に特化した優れた施策をモデル事業として遂行する。

既に、神戸大学医学部附属病院は、地域がん診療連携拠点病院として研修活動を積極的に行ってきたが、コメディカル育成に関しては、これまでも医学部附属病院に設置した緩和ケアチームに兵庫県内外より毎月 3 名程度の研修者を受け入れ、近年のがん医療で重要な役割を担う緩和医療についての高度専門教育を施し、地域医療の質の底上げに貢献してきた。本緩和ケアチームは平成 20 年に約 80 症例のケアを実施し、平成 21 年度には専従の医師、看護師が配置される予定で、地域医療機関の手本となっている

これらをさらに発展させ、今回、構築される人材育成拠点を中心に、高度な技術を持つエキスパート・コメディカルの育成は、地域・災害医療におけるコメディカルの質を向上させ、円滑なスキルミクスを可能とし、医師不足を含む様々な問題を抱える兵庫県内の地域医療の質・安全性を維持することが可能で、さらには本育成事業による災害医療の充実、今後、危惧される南海大地震発生時などの大災害の備えにつながることもできる。

2. 地域再生人材創出構想の内容

養成の対象者は主に地域医療に従事するコメディカルとし、高度専門教育を実施し、医師とのスキルミクスを円滑に行う知識、技術を習得した人材の育成を目指す。上述のように現在の医療は看護師、保健師、助産師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、医学物理士、管理栄養士、理学療法士、作業療法士など多数のコメディカルなしでは成立せず、医師に限らずコメディカルの質・量が確保されなければ医療の質・安全性も担保できないことが医療業界の世界的な常識となっている。本育成プログラムでは、

(1) 神戸大学大学院医学研究科に地域等のコメディカルを集め、高度専門教育を施すことにより実際の地域医療ならびに災害医療の現場で効率的なスキルミクスを実現できるエキスパート・コメディカルを育成し、(2) それらの専門教育を受けた人がさらに地域・災害医療のリーダーとして活躍することによって、地域・災害医療の質向上、ひいては地域社会の活性化を促進することを目指す。

本プログラムは、災害・救急医療(看護師、薬剤師、臨床検査技師)、感染症医療(看護師、薬剤師、保健師、臨床検査技師、管理栄養士)、周産期医療(看護師、助産師)、高齢者医療(看護師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士)、がん医療(看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、医学物理士、管理栄養士)、の5つの領域に精通したエキスパート・コメディカルの育成を目指す。兵庫県内の地域医療に従事するコメディカルより主に希望者を募り、神戸大学医学部附属病院を中心に教育、研修を講義、実習、セミナーの開催を通じて実施する。教育研修の修了者には本育成プログラム独自の修了書を授与すると同時に、関連する各種学会や看護協会などが認定する専門の資格等についても対応するように育成プログラムを作成する。実際の育成業務に関しては神戸大学大学院医学研究科、保健学研究科、兵庫県立大学、および神戸薬科大学の教員が従事するとともに、兵庫県立病院(がんセンター、粒子線医療センター、こども病院、総合リハビリテーションセンター)の連携教員も教育者として積極的に本育成業務に従事する予定である。実際に高度医療を日常的に実施している医師およびコメディカルが育成教育に当たることにより、より実践的な専門教育が可能となり、地域医療ならびに災害医療の現場に即、貢献できる人材を育成することが可能である。具体的には①災害・救急医療②感染症医療③周産期医療④高齢者医療⑤がん医療の5つの専門分野において1ヶ月～3ヶ月の教育研修インテンシブコースを設置する。各コースの受講希望者は兵庫県内の医療機関のコメディカルより募り、受講に際しては試験を実施する。①災害・救急医療コースは災害・救急医学講座、都市安全研究センター、が中心となって教育研修コースを運営し、災害発生時に機能的なチーム医療を実践できる看護師などのエキスパート・コメディカルの育成を目指す。②感染症医療コースは、兵庫県、神戸市における感染症部門のヘッドクォーターとして地域の感染症対策に貢献することを目的として平成21年度より医学研究科に設置予定の感染症センターが中心となって教育研修コースを運営する。③周産期医療コースは、医学部附属病院周産母子センターが中心となり産科、小児科が一体となった教育、研修が行えるようにする。④高齢者医療コースは、脳卒中の回復期のリハビリテーションを中心に研修を行う予定であるが、急性期診療の研修も平成21年に開設される脳卒中センターで実施する。⑤がん医療コースは、腫瘍センターが中心となってがんの診断、化学療法や緩和ケアに対して研修を行う。また放射線腫瘍科と中央放射線部門が協調して、放射線治療に関連する研修を行う。

より広い視野を養うためにコース受講中は神戸大学大学院において実施される大学院講義や講演会の受講も可

能なシステム整備を行う。また各コースにおいては研修修了時にも試験を実施し、専門医療におけるスキルミクスを円滑に行う到達レベルにまで達していることを確認する。さらに、本プログラム修了者に対しても定期的なセミナーを開催し、医療レベルを担保するとともに兵庫県内の医療上の問題点を共有し、解決案を検討するようにする。本育成プログラムを修了したエキスパート・コメディカルには、修了書等を交付し、地域・災害医療のリーダーとして県立病院をはじめとする政策医療を担う医療機関への配置を促し、県内全体をフィールドとした循環型の配置・育成システムの構築を目標とする。また、各研修コースは実施期間終了後も存続させ、本人材育成拠点形成事業と並行して医学研究科に設置予定の地域社会医学・健康科学講座が中心となり、神戸大学にて運営を継続する。

3. 自治体との連携・地域再生の観点

現在、神戸大学大学院医学研究科および同大学医学部附属病院と兵庫県立病院の間で地域医療向上のための相互連携協力協定を締結し、医師の相互交流を実施している。本育成コースを通じて医師以外のコメディカルについても相互交流を拡大する。具体的には本育成プログラムと地域医療機関とが、受講者が教育を受ける期間、給与面や受講後の職場での境遇などで受講者の不利益が生じないような協定を結び、連携システムを構築する。さらに実習をより円滑に実施するための診療従事許可を協定の中に盛り込むことによって、受講者が、教育者の指導の下でより積極的に専門教育を取り組める環境作りを行う。また県立病院以外の地域医療機関に勤務する多くのコメディカルも本育成プログラムへ参加してもらえるように、兵庫県より各地域医療機関へ積極的に働きかけを行ってもらう。また本育成コースの修了者は、兵庫県が地域医療再生ならびに災害医療充実のリーダーとして有効な人材配置を実施する。

4. 3年目における具体的な目標

①災害・救急医療②感染症医療③周産期医療④高齢者医療⑤がん医療の5つの専門コースを設け、最初の1年をカリキュラム作成および人材育成従事者の整備にあたる。続く2年間で各コース8名、計40名のエキスパート・コメディカルを育成し、兵庫県内の地域医療の活性化ならびに災害医療の充実に貢献する人材として、「兵庫県保健医療計画」の推進に積極的に活用する。

5. 実施期間終了時における具体的な目標

3年目以降、各コース8名、計40名の人材を育成し、期間合計で計80名のエキスパート・コメディカルを育成する。コース修了者は各医療機関における、地域医療再生ならびに災害医療充実の取り組みに対して主導的な役割を發揮し、兵庫県の地域再生計画の中心的な役割を果たす。

6. 実施期間終了後の取組

既に実施している神戸大学と兵庫県の地域医療向上のための医師相互連携協力協定とともに、本育成プログラムを通じて医師以外のコメディカルについても相互交流を拡大し、各研修コースは5年間の実施期間終了後も存続させ、本育成プログラムと並行して医学研究科の域社会医学・健康科学講座と兵庫県が協力して、本人材育成プログラムの運営を継続する。

7. 期待される波及効果

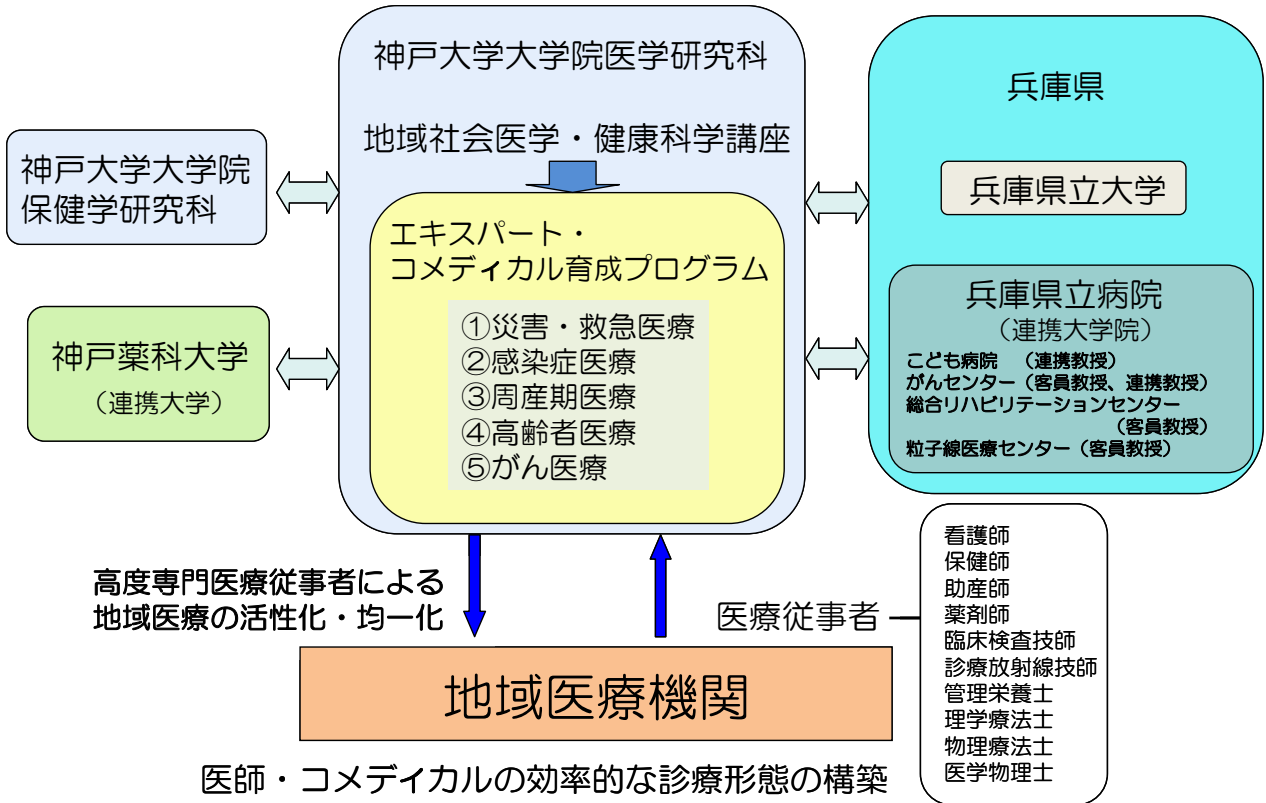
兵庫県内の地域医療格差を是正させることにより、兵庫県全体の医療水準を大幅に向上させることが可能である。

さらには本事業により同時に達成される災害医療エキスパート・コメディカルの育成により今後、発生の危惧される南海大地震などの大災害の備えにもなる。本プログラムによる地域医療再生ならびに災害医療の充実を通じて地域社会の活性化、社会資源の充実に寄与することができる。

8. システム改革の実現性とその実施体制

神戸大学大学院医学研究科、保健学研究科、および医学部附属病院と兵庫県が連携し、災害・救急医療、感染症医療、周産期医療、高齢者医療、がん医療 の5つの

領域に精通したエキスパート・コメディカルの育成を目指す。育成業務には神戸大学大学院医学研究科、保健学研究科、兵庫県立大学、および神戸薬科大学の教員が従事するとともに兵庫県立病院の職員も教育者として協力する。受講するコメディカルを高度な能力を持つ医療人へと育成し、地域医療ならびに災害医療の水準・安全面の向上に積極的に貢献する。兵庫県地域としてリーダー的コメディカルの質、量、医療水準を全国トップレベルに押し上げ、高度な能力を持つ職業人としてのエキスパート・コメディカルを積極的に県内に輩出する。



氏名	所属部局・職名	提案課題における役割
◎福田 秀樹	神戸大学・教授、学長	統括責任者
根木 昭	神戸大学大学院医学研究科・教授、研究科長	実施統括監督者
杉村 和朗	神戸大学大学院医学研究科・教授、病院長	運営管理、講師
○藤澤 正人	神戸大学大学院医学研究科・教授	運営管理、カリキュラムの作成、講師
前田 盛	兵庫県病院事業管理者	運営管理、講師
太田 光熙	神戸薬科大学薬学部・教授	カリキュラムの作成、講師・実習指導
岩川 精吾	神戸薬科大学薬学部・教授	カリキュラムの作成、講師・実習指導
宇佐美 眞	神戸大学大学院保健学研究科・教授	カリキュラムの作成、講師・実習指導
平井 みどり	神戸大学大学院医学研究科・教授	カリキュラムの作成、講師・実習指導
西村 善博	神戸大学大学院医学研究科・准教授	講師・実習指導
白川 利朗	神戸大学大学院医学研究科・准教授	講師・実習指導
佐々木 良平	神戸大学大学院医学研究科・准教授	講師・実習指導
白川 利朗	神戸大学大学院医学研究科・准教授	運営・管理
味木 徹夫	神戸大学大学院医学研究科・特命教授	災害医療コースリーダー/講師・実習指導
川嶋 隆久	神戸大学大学院医学研究科・准教授	災害医療コースサブリーダー/講師・実習指導
浮田 もりよ	神戸大学医学部附属病院・看護師長	災害医療コース講師・実習指導
国枝 卓子	神戸大学医学部附属病院・看護師長	災害医療コース講師・実習指導

荒川 創一	神戸大学大学院医学研究科・特命教授	感染症医療コースリーダー/講師・実習指導
李 宗子	神戸大学医学部附属病院・看護師長	感染症医療コース講師・実習指導
田中 一志	神戸大学大学院医学研究科・特命准教授	感染症医療コース講師・実習指導
木下 承皓	神戸大学医学部附属病院・検査技師長	感染症医療コース講師・実習指導
山崎 峰夫	神戸大学大学院医学研究科・特命教授	周産期医療コースリーダー/講師・実習指導
横山 直樹	神戸大学医学部附属病院・准教授	周産期医療コースサブリーダー/講師・実習指導
斎藤 いずみ	神戸大学大学院保健学研究科・教授	周産期医療コース講師・実習指導
陌間 亮一	神戸大学大学院医学研究科・特命助教	周産期医療コース講師・実習指導
休坂 みち子	神戸大学医学部附属病院・看護師長	周産期医療コース講師・実習指導
川合 宏哉	神戸大学大学院医学研究科・特命教授	高齢者医療コースリーダー/講師・実習指導
安田 尚史	神戸大学大学院医学研究科・特命講師	高齢者医療コースサブリーダー/講師・実習指導
苅田 典生	神戸大学大学院医学研究科・特命教授	高齢者医療コース講師・実習指導
松本 衣代	神戸大学医学部附属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師	高齢者医療コース講師・実習指導
塩川 ゆり	神戸大学医学部附属病院・看護師長	高齢者医療コース講師・実習指導
坂上 元祥	兵庫県立大学大学院環境人間学研究科・教授	高齢者医療コース講師・実習指導
伊藤 光宏	神戸大学大学院保健学研究科・教授	がん医療コースリーダー/講師・実習指導
伊藤 智雄	神戸大学大学院医学研究科・特命教授	がん医療コースサブリーダー/講師・実習指導
平井 みどり	神戸大学大学院保健学研究科・教授	がん医療コース講師・実習指導
藤原 由佳	神戸大学医学部附属病院・看護師長	がん医療コース講師・実習指導
南 博信	神戸大学医学部附属病院・特命教授	がん医療コース講師・実習指導
薬師神 公和	神戸大学大学院医学研究科・特命助教	がん医療コース講師・実習指導
山原 敦子	神戸大学医学部附属病院・副看護師長	がん医療コース講師・実習指導

9. 各年度の計画と実績

a. 平成 21 年度

・計画

人材養成従事者の招集、運営委員会などを通じて実施体制を構築する。養成コースのカリキュラムの作成、テキストなどの教材の作成を行う。平成 22 年度の養成コース参加者の募集、選考を行う。またフォーラムなどを通じて地域医療機関に対する本プログラムの周知、コメディカル教育の啓蒙活動を行う。

・実績

神戸大学大学院医学研究科、保健学研究科、兵庫県立大学、神戸薬科大学の教員および兵庫県立病院の連携教員を中心に人材養成従事者の招集を行い、また、8 回総合運営委員会開催し、災害・救急医療、感染症医療、周産期医療、高齢者医療、がん医療の養成コースの実施体制を構築した。各養成コースでカリキュラム、テキストなどの教材の内容を検討し、エキスパート・コメディカル育成コースのシラバス、テキストを作成した。平成 22 年度の養成コース参加者の募集、選考を行い、24 名を合格とした。また 3 月 12 日にはフォーラムを開催し、地域医療機関に対する本プログラムの周知、コメディカル教育の啓蒙活動を行った。

b. 平成 22 年度

・計画

養成コースのカリキュラム、テキストなどの更新を行う。災害・救急医療、感染症医療、周産期医療、高齢者医療、がん医療の 5 つの専門コースで各コース 4 名、計 20 名の教育研修、修了者を各地域医療機関に育成する。平成 23 年度の養成コース参加者の募集、選考を行う。またフォーラムなどを通じて地域医療機関に対する本プログラムの周知、コメディカル教育の啓蒙活動を行う。

・実績

災害・救急医療 4 名、感染症医療 9 名、周産期医療 3 名、高齢者医療 2 名、がん医療 6 名の計 24 名の受講生に対し、神戸大学医学部附属病院、兵庫県立病院等で、講義・実習などの教育研修を行った。受講後、出席状況、レポート、試験（実技を含む）結果から合否判定を行い、24 名全員合格し、修了証書を授与した。

7 月 20 日と 3 月 12 日に全体のフォーラムを開催し、受講修了生から今回の受講による効果（病院での新たな取り組みなど）の報告や、コースリーダからコースの説明などが行われた。6 月には周産期コース、感染症コースがフォーラムを行い、それぞれ「院内助産制度について」、「結核の現状について」の講演が行われた。7 月には災害・救急医療コースがフォーラムを行い、災害・救急医療分野での地域医療の現状および問題点について活発な意見交換が行われた。これらのフォーラムを通じ地域医療機関に対する本プログラムの周知、コメディカル教育の啓蒙活動を行った。

各養成コースでカリキュラム、テキストの更新を行った。また講義・実習内容を中心に教材 DVD を作成し、県内各医療機関に配布し、本プログラムの周知およびプログラムに参加できない施設におけるコメディカル教育に貢献した。

平成 23 年度の養成コース参加者の募集を行い、運営委員会で選考を行い、25 名を合格とした。運営委員会は 12 回開催され、自治体（兵庫県）との協力・意見交換、教材作成、フォーラムの準備、広報活動など円滑なプログラムの運営に関する討議が行われた。

c. 平成 23 年度

・計画

養成コースのカリキュラム、テキストなどの更新を行う。

災害・救急医療、感染症医療、周産期医療、高齢者医療、がん医療 の5つの専門コースで各コース4名、計20名の教育研修、修了者を各地域医療機関に育成する。平成24年度の養成コース参加者の募集、選考を行う。またシンポジウムなどを通じて地域医療機関に対する本プログラムの周知、コメディカル教育の啓蒙活動を行う。

d. 平成24年度

・計画

養成コースのカリキュラム、テキストなどの更新を行う。災害・救急医療、感染症医療、周産期医療、高齢者医療、がん医療 の5つの専門コースで各コース4名、計20名の教育研修、修了者を各地域医療機関に育成する。平成25年度の養成コース参加者の募集、選考を行う。またシ

ンポジウムなどを通じて地域医療機関に対する本プログラムの周知、コメディカル教育の啓蒙活動を行う。

e. 平成25年度

・計画

養成コースのカリキュラム、テキストなどの更新を行う。災害・救急医療、感染症医療、周産期医療、高齢者医療、がん医療 の5つの専門コースで各コース4名、計20名の教育研修、修了者を各地域医療機関に育成する。次年度以降も人材育成を継続できる実施体制を整備する。

10. 年次計画

項目	1年度目	2年度目	3年度目	4年度目	5年度目
人材養成業務従事 予定者の招聘	↔	↔	↔	↔	↔
養成カリキュラムの 作成	↔	↔	↔	↔	↔
養成対象者の選考	↔	↔	↔	↔	↔
研修 (1) 災害医療 (2) 感染症医療 (3) 周産期医療 (4) 高齢者医療 (5) がん医療		↔ ↔	↔ ↔	↔ ↔	↔ ↔
養成目標人数 <在籍者数>	0 <0>	20 <24>	20 <25>	20 <20>	20 <20>